
日本人間関係学会ニュース 第85号 発行日:2015.10.30

News No.85 Japan Association of Human Relations October 30, 2015

発行：日本人間関係学会 広報委員会 E-mail:tanikawa@kusw.ac.jp 谷川和昭研究室
事務局：〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641 東京理科大学理工学部教養科川村(幸)研究室
FAX:04-7122-1560 E-mail:jahrjimukyoku@gmail.com

[内容] ☆理事長挨拶 ☆支援活動委員会報告 ☆人間関係学探訪(新連載) ☆東北地区会発足 ☆free gift ☆事務局日より

《理事長挨拶》

第23回大会を間近に控えて —11.14-15(土・日)開催・九州ルーテル学院大学(熊本市)—

日本人間関係学会理事長 小山 望
(埼玉学園大学大学院教授)



このたび本学会第23回全国大会を熊本市にある九州ルーテル学院大学教授の永野典詞先生に開催していただくことになり、永野先生、香崎先生をはじめ大会実行委員会の皆様には学会員を代表して感謝申し上げます。本学会の全国大会が九州で開催されるのは今大会が初めてで、今から楽しみにしています。永野先生は障害者福祉がご専門でそのご専門の立場から保育者養成に関わってこられた方です。私との共通項はペット(犬)を飼っていることで、愛犬談義になるとにこにこした顔になり、話に夢中になる先生が印象的です。

さて、今大会の総会で提案したいことが2つあります。ひとつは、本学会が法人格を取得することです。すでに多くの学会は法人格を取得しており、本学会も学術団体として登録しておりますが、まだ法人格を取得しておりません。文科省からも学会などの学術団体に対して、法人化をするようにとの要請があります。本学会も資格認定事業、研修講座、出版事業を今後も行っていくうえで、何らかの団体登録が必要になってきます。学会が現

在のように任意団体でありますと、社会的責任が弱く、例として挙げれば学会名で銀行口座の開設ひとつにとっても大変厳しく簡単にはできません。法人格を取ると学会名で法律行為ができます。契約とか、雇用、売買、賃借などです。また社会的責任のある団体と認められます。今後出版事業も考えておりますので、学会名で本の販売なども可能となります。具体的には非営利型の社団法人に移行して、公共団体や民間の関係機関との共同事業などを受託しやすい環境を整えていきたいと考えております。次には学会運営において理事会の枠を拡大して多くの中堅・若手の会員にも運営に携わってもらおうという提案です。

現在の理事会構成メンバーの年齢は60代、50代ですが、もっと若い40代、30代の会員にも理事になってもらうという提案です。具体的にはまずは現在の各委員長に理事になってもらいたい意見やアイデアを提案してもらい、学会の永続的な発展に寄与してもらいたいと考えています。

学会員の皆さん、是非熊本の大会にご参加されて、会員同士の交流を愉しんでください。そして馬刺し、新鮮な海の幸、熊本城、阿蘇山なども味わって遊んでいってください。

支援活動委員会 8月期 活動報告

日本人間関係学会支援活動委員会、8月期の支援活動報告をいたします。

支援活動参加メンバー： 小山望（学会理事長）、佐々木美恵（支援活動副委員長）、武井明美、松田峻、田嶋 靖弘、埼玉学園大学小山ゼミ生、東京理科大学ボランティアサークルココサポ）

- 1) 期間：平成27年8月28日 ～30日（3日間）
- 2) 場所：宮城県南三陸町
- 3) 活動内容

①南三陸町庁舎訪問（8月28日）

地域包括支援センター所長の工藤初恵さん、保健福祉課健康増進係長の佐藤奈央子さんと会って情報交換を行いました。南三陸町の佐藤町長は、出張で不在のためお会いすることができませんでした。南三陸町病院とケアセンターが今年の12月に完成予定で、これでやっと健康と福祉の拠点施設ができるという嬉しい知らせでした。一方、高齢者が多い町で一番心配なのは、福祉を担う人材がかなり不足していて、介護福祉のニーズに対応できないことだとお話されました。本学会に対しては、数年先に公営住宅団地ができるが入居者は高齢者がほとんどで、団地のコミュニティづくりを手伝ってもらえないかということでした。保健福祉課長の三浦さんに挨拶をして庁舎をあとにしました。（小山理事長）



②子どもたちとの交流（体育館 8月29日）

今回は久々にベイサイドアリーナという大きな体育館を借りて活動しました。子どもたちは普段、仮設住宅周辺の狭いスペースや室内で遊んでいるため、ここぞとばかりに全力で走り回ります。学会員や学生たちもそれに負けないくらい元気に遊びました。子どもたちはやりたいことが盛り沢山、キックベースやらバドミントンやら次から次へと提案してきます。時間が経つにつれて、子どもたちの無限の体力に圧倒され、大人チームVS子どもチームのドッチボールでは2連敗…確か前回も負けたような（笑）。

前回の訪問は2015年3月で、子どもたちは学年が1つ上がり、また成長した姿を見ることができました。小学生から中学生となった男の子は、上下関係を学び言葉遣いを意識していました。中学生から高校生となった女の子らは、大人っぽさと一歩引いた所から全体を見る視野の広さを身につけていました。

今後子どもたちとの交流を継続したいです。（松田さん）

もう何度も子供たちと交流を重ねている中で、子供たちの中に芽生えてきた変化が目立つ活動になりました。小学生ばかりだった子供達も、気が付けば中学生・高校生。言葉遣いが丁寧になっていたり、大人との会話にぎくしゃくした態度となってしまうことがなくなったり、ふとしたことで子供達の「成長」を感じることができました。

そんな子供達の成長と足並みをそろえるように、仮設住宅にも様々な変化が見られました。高台に新築の家が少しずつ完成してきていることもあり、仮設住宅に住んでいた人達が高台へ引っ越しを始めていました。新しい生活の拠点となる場所に移動できることは喜ばしいことですが、いつも一緒に遊んでいた仮設住宅・持家の子供達の距離が遠くなってしまうことにほんのり寂しさも感じました。

復興に向けて様々な変化が見られた今回の活動でしたが、人と人とのつながりを絶やすことのないように、今後とも活動を重ねていきたいです。（田嶋さん）



③仮設住宅での交流会（8月29日）

交流会は夕方から、細浦仮設住宅の集会室で行われました。

子ども達は小雨の中、西瓜割りや花火を楽しみ、移転が進み空き室の多くなった仮設住宅に、元気なはしゃぎ声が響いていました。

区長さんをはじめ若い世代の方も含め、10名ほどが集まって下さいました。生活の場が、仮設・持家・高台へ移転した方と、1行政区が3分割されたようであり、それぞれ複雑な心境がうかがえました。「皆のために良かれと思って行動したことが、結果責められる立場になってしまった。どこにもぶつけられない思いがある」と話して下さいた高台移転用地の提供者は、集会室に入って交流することはありませんでした。

若い世代にも、前向きな生活が見えて来たのでしょうか。飲食を共に親睦を深めるなかでは、笑いが多く感じられました。（武井委員）



④子どもたちとの交流（仮設住宅 8月30日） 前日から約束していた通り、仮設住宅で子どもたち4人と遊びました。前日から、「明日は何時に来



るの?」「8時半に来て!」など、子どもたちは明日を待ち望む言葉を私たちに投げかけてくれていました。あいにくの雨となり、最初は集会所でトランプをするなどの屋内でのスタートとなりました。しかし子どもたちのエネルギーは屋内ではおさまらず、徐々に遊び場は屋外へと移動していきました。雨宿りをしながらのしゃぼん玉から、最終的には雨の中での外遊びとなりました。せっかく皆がいるのだから、外で思い切り遊ばないのはもったいないという雰囲気でした。細浦の子どもたちはとにかく走る。恒例の鬼ごっこが始まり、そこでは、こちらの活動メンバーがひそかに用意していた水風船が飛び出し、鬼にぶつけるという大盛り上がりの時間となりました。別れ際、「またね!」と約束し合う中でも、「あ、次は俺いない…」（仮設住宅を出て引越しをするため）という言葉をもらす子どももいました。少しずつ状況が変わりつつあることを実感する瞬間でした。（佐々木副委員長）

2015/08/28-30, 支援活動会計報告

支出項目	額	備考
レンタカー	¥33,240	1台分のみ支出。他2台分は個人経費として支出。（補修費を含む）
ガソリン	¥3,724	レンタカー 3台分
施設利用（体育館）	¥3,800	
食料	¥31,733	懇親会用食材や子どもたちとの交流時飲料など
	¥72,497	

8月期支援活動にてカンパいただいた先生方

小山先生、早坂先生、川村先生、三好先生、山本先生、占部先生、杉本先生
森先生、田中先生、杉山先生、勅使河原先生、市川先生、
いつもご支援いただきありがとうございます。

新連載

人間関係学探訪シリーズ①

日本人間関係学会は教育・医療・心理・福祉など研究者だけの集まりでなく、人間関係に関心のある企業人、学生、市民など多種多様な会員が集まっています。そうした会員のお一人おひとりにスポットを当てて、Q&A形式で、その実践やお人柄、人間関係への想いを語っていただき、人間関係学の探究に何らかの示唆を得ることが本シリーズ（新連載）の意図・ねらいです。

記念すべき第1回は、第23回全国大会委員長でもある永野典詞先生に語っていただきました。

永野典詞氏

九州ルーテル学院大学教授。主な著書に『保育士・幼稚園教諭のための保護者支援～保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援』（風鳴舎、2014年）など。他多数）



谷川（広報委員会）：こんにちは。永野典詞先生。初めてのインタビューです。緊張しますが、まずはご出身からお願いします。どちらになりますか。

永野：熊本県八代市です。山と海に囲まれて育ちました。

谷川：自然いっぱいに囲まれて…。お若そうに見えますが、おいくつですか。

永野：50歳。12月で51歳です。

谷川：全然感じさせませんね（笑）。では、ご経歴について教えてください。

永野：私は身体障害者療護施設、現在の名称は障害者支援施設に主任指導員として勤務した後、短期大学、4年制大学の教員として保育士・幼稚園教諭、いわゆる保育者養成に携わっています。現在、保育者養成において人間関係力の大切さを実感しており、学生だけでなく、研修等を通じて現場の保育者にも人間関係力の大切

さと重要性を伝えていきたいと考えています。

谷川：先生のご趣味は何ですか。

永野：犬、ウォーキング（犬の散歩）、筋トレ、旅行です。犬はラブラドルレトリバー（11歳の女の子）を飼っています。名前は sofy です。11年間毎朝約1時間（休日は朝、昼、夜3時間程度）の散歩としつけトレーニングをしています。このため趣味がウォーキングになってしまいました。また、今年の1月から筋トレ（自宅で自重トレ）とプチ糖質制限をはじめて体脂肪が20%→14%、内蔵脂肪が7%になりました。なんと言っても深酒しても二日酔いしない身体になり嬉しい限りです（酒量は増えています）。これは不思議です。さらに、八重山が好きで今年だけでも4回石垣島、竹富島、沖縄本島に旅をしています。結婚してはじめて1人旅で石垣島のマグロ釣りに挑戦しました。なんと

約20キロのキハダマグロを釣り上げることができました。これから挑戦したいことは世界一周と大型バイクの免許を取ることです。

谷川：羨ましい限りです。とくに11年間のウォーキングの蓄積は大きいものがありますね。では、学会に入会してどのくらいになりますでしょうか。

永野：そうですね。7年ほどになるでしょうか。

谷川：学会に入会された動機は。

永野：会員の知人に誘われて入会したのがきっかけです。学会のフレンドリーさや新しい会員を受容していただける風土にとっても親しみをもちました。さすが、人間関係学会だと思いました。

谷川：現在の活動実践について少しお話をいただけないか。

永野：社会貢献として、保育所や児童養護施設（以下、保育施設）と障がい者スポーツにかかわりを持っています。保育施設での保育ソーシャルワーク、人間関係力向上などの研修に取り組んでいます。保育者が対人援助職として子どもや保護者、地域の子育て家庭の支援を担っていく上で必要とされる専門的知識と技術だけでなく、人間関係力を身につけていただきたいと願っています。また、障がい者スポーツの世界に25年ほどいます。以前は実践指導が中心でしたが、ここ10年程はマネジメントが中心となり、日本障がい者スポーツ協会の研修委員として指導者の研修・研究に取り組んでいます。今、まさに東京パラリンピックに向けて自分ができることを探しているところです。

谷川：保育ソーシャルワークや障がい者スポーツ、東京オリンピックにまで広がりがありますね。ところで、本学会には人間関係士という資格があり、人間関係力を打ち出しています。7つありますが、大事になさっている順番に並べ替えるとどうなりますか。

永野：人間関係力について並び替えてみましょう。

①他者受容・共感力、②回復・調整・再生力、③自己受容力、④媒介力、⑤連携・協働力、⑥創造・発展力、⑦全体認識・洞察力、以上です。

谷川：並び替えてみられてどうでしたか。コメントをお願いします。

永野：私が人間関係で最も大切にしていることは受容と共感であり、信頼関係のスタートだと考えています。また、仕事柄、人間関係の問題

や課題を調整することが必須であり積極的に取り組んでいます。それでも、人間関係の調整には1人ではできない難しさを感じてもあります。そして、意識していることは自分を受け入れることです。私は尊敬する塩尻公明先生の言葉でもある「すべてを受け取る（個人的には受け止める）」このことを意識しながら生活しています。とても難しく悩み多い私ですが、“物事を自分で受け止める”ことの大切さを意識しています。私自身いまだ人間関係力を身に付けている途上にあります。私の行動指針でもある、“バイスティックの7つの原則”を踏まえ、人間関係力を深めていきたいと考えています。

谷川：7つの原則を踏まえた7つの人間関係力、私も深めていきたいですね。では、最後にもう1つ。人間関係、こうすれば良くなるみたいな何か提言なり提案はございませんか。

永野：人間関係は子どもの時から学ぶことが重要です。子どもは子ども同士の遊びや周りの大人との関わりからさまざまな（人間関係もその1つ）ことを学び成長していきます。そこで、まさにいま大切なのは大人の姿ではないでしょうか。大人が他者を理解し認める社会を作ることが肝要ではないかと思います。しかし、現代社会は人間関係が混沌とし他者を嫉み、失敗が許さない様相がみられます。それらを見て育つ子どもはこの現状をどのように見て、そして、どのように考えるのでしょうか。今こそ、大人が多様性を認め、そして、互いを認め合い、失敗を悔いたら赦し合える社会、そして互いが“大丈夫だよ”と支え合う社会を作っていくことを目指したいと考えます。

谷川：大人の背中を見て育つ子どものためにも、まずは大人が襟を正すということですね。貴重なお話をどうもありがとうございました。

（インタビュー：2015年9月12日）



永野氏の愛犬sofy

速報！「東北地区会」始動

第1回 東北地区会研修会報告

日時：平成27年10月5日（月） 18時～19時

場所：NTT東日本 東北病院 研修室

研修テーマ：看護・介護とカウンセリング（講師：杉山雅宏）

看護も介護もカウンセリングも、いずれも人間関係を主体とした援助活動を行うので重複した部分が多くあります。これらの共通した部分を尊重して協力し合い、互いに助け合っていけば、多くの患者さんを救えるだけでなく、私たちが気持ちよく仕事をすることができるのではないかと思います。

今回の研修では、アメリカのカウンセリング心理学者アレン・アイビーらが開発したカウンセリングの訓練、および、実践のための体系的な方法である「マイクロカウンセリング」の関わり技法を中心に看護・介護の現場で活かせるカウンセリングについて学びました。

参加者：42名

今回の研修会では、NTT東日本 東北病院の看護部の方々が全面的にバックアップしてくださり、研究会についての告知を、周辺諸施設にしてくださいました。看護師さんが中心でしたが、予想以上に多くの方に集まっていたいただき、看護・介護現場で活かすカウンセリング・スキルについて学ぶことができました。

この研修会に参加された方で、3名の方が本学会に入会してくださいました。今後も、地道に仙台の地で活動の根を張れるように、仲間と共に働きかけていきたいと思います。（杉山）



《会員の書籍紹介》

『生きる自分心鏡』

杉山雅宏 著

悠々舎・東京六法出版

A5版・180頁

2014年10月10日発行

本体価格：1300円



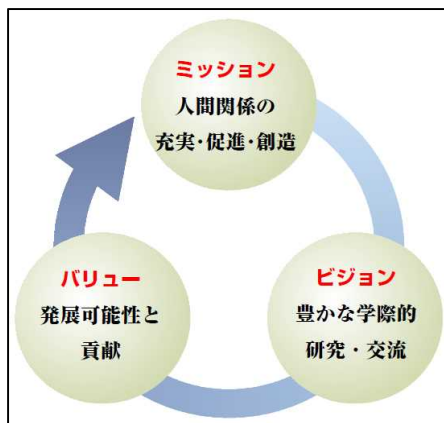
著者・杉山先生からのメッセージ

この本には28項目の「傾聴」のポイントが細かく記されています。「傾聴」の核になる部分は、「あなたのことを知りたい、理解したい」という純粋な気持ちです。相手を尊重し大切にするマインドから生まれてくる気持ちです。スキルではありませんから、誰でも身につけることができます。人の話を聴かせていただき、自分サイズの満足を手に入れること、これこそが、自分らしく生きることの基本であることを、本書を手にとった方々に知っていただきたいと思います。

日本人間関係学会・歴代の大会テーマ

	大会テーマ
第1回大会	なし
第2回大会	なし
第3回大会	かわりゆく社会と新しい人間関係
第4回大会	豊かな人間関係の創造を求めて
第5回大会	世界に広げる豊かな人間関係ー冬季オリンピックの地長野で人間関係を考える
第6回大会	出会いの創造とはぐくみ
第7回大会	社会の変化のなかの人間関係
第8回大会	21世紀にむけての人間関係の創造ー豊かな共生をめざしてー
第9回大会	これまでのそしてこれからの人間関係
第10回大会	信頼的人間関係の創造
第11回大会	これからの人生を豊かに生きるための人間関係づくり
第12回大会	人を育む人間関係の構築と展開
第13回大会	生と死にかかわる人間関係 Well-Beingのために
第14回大会	支援して・されて共に生きる人間関係
第15回大会	つながり、深めつつ、広げる人間関係
第16回大会	ともに支え合って生きることと人間関係
第17回大会	人間関係の忘れもの
第18回大会	人間関係の危機と再生
第19回大会	今求められる人間関係力ー絆ー
第20回大会	時空を超えて、いま「生きる」意味を問う
第21回大会	一歩前へ
第22回大会	「いじめにかかわる人間関係」を考える
第23回大会	互いに認め合い、赦し合える人間関係を目指して

学会の使命・展望・価値



今回で23回目を迎える日本人間関係学会ですが、これまでどのような大会テーマを掲げて開催されてきたのかを本学会機関誌『人間関係学研究』バックナンバーを手がかりに一覧にしてみました。これは開催年や開催地（会場）が未挿入の簡略化されたものですが、皆さまに各回のテーマを味わっていただける機会となれば幸いとの思いで整理しました。

会員関係諸氏が参加されたそれぞれの大会には、その大会毎に苦労や感激、思い出深いものがあるかと推察されます。このように過去に学び未来に活かしていくことも大切だろうと思います。（谷川）

▶学会広報誌「こころの広場」原稿募集 広報誌委員会からのお知らせ

「人間関係にまつわるエピソード」「人間関係士と私」に関する原稿を募集いたします。原稿はWord形式で、タイトル、お名前・ご所属を明記の上、お顔写真をご添付ください。文字数は10000～12000字程度です。皆さまのご投稿をお待ちしております。

なお、詳細については学会ホームページをご覧ください。

投稿先メールアドレスはこちら kouhoushikokoronohiroba@gmail.com

（田中）



公式Facebookを試行的に開始しました。2015年10月21日現在、14名の方がフォロワーになっていただいております。情報共有・提供の一環ですので、ぜひ一度覗いてみてください。（谷川）

《事務局だより》

- ✓ **会員状況**（9/30 現在）
232名（内訳：正会員 195名，準会員 36名，賛助会員 1名）
- ✓ **新入会員**（6/14～9/30）
14名（内訳：正会員 7名，準会員 7名）
- ✓ **新入会員紹介**（順不同・敬称略）
福田聖子，竹下徹，池田邦子，丸谷充子，西川勝利，菅原秀次，川合萌，川上準子，
及川淳子，小林桃子，加藤冴子，菊池沙也加，柴明子，古山麻里
- ✓ **退会者**（6/14～9/30）
1名（内訳：通常退会 1名）
- ✓ **2015年度（2015年10月～2016年9月）会費納入について**
すでに振込用紙をお送りしました。なるべくお早めにお納めください。用紙が届いていない方は事務局へご一報ください。自動引き落としを推奨しています。ご希望の方は事務局へその旨お知らせください。必要書類一式をお送りいたします。
- ✓ **事務局からのお願い**
住所・連絡先・会員身分の変更のある方は至急事務局までご連絡ください。事務局への連絡方法はFAXまたはメールでお願いいたします。ご返信までにお時間がかかる場合もあります。1週間以内にお返事・対応したいと考えております。余裕をもってご連絡ください。

FAX : 04-7122-9219 E-mail : jahrijimukyoku@gmail.com 事務局 : 川村(幸)研究室

（編集後記）

第23回大会（熊本大会）がいよいよ開催されます。今号から新連載「人間関係学探訪」を開始しましたが、偶然にも最初にインタビューに応じていただけたのが今大会の実行委員長永野先生です。大会に参加されるにあたり、そのお人柄に触れる機会となりアップトゥデートな記事になったのではないのでしょうか。また、支援活動委員会の息の長い活動報告を河合先生よりご寄稿賜りました。そして小山理事長には毎回の時期に巻頭言のご負担をかけます。さらに関西地区会、関東地区会に続き発足した東北地区会の様子を杉山先生から頂戴しました。ニュース記事について、先生方どなたも快くお引き受け下さり厚く御礼申し上げます。（谷川）